



## 1皿のライスから700億円の選挙まで

-社会とつながる『想像力』を養おう-

先日、息子たちとファミリーレストランへ食事に行きました。注文したライスが運ばれてきて驚きました。以前の7割ほどの量に減ったように見えたからです。



息子は「もう来ない」と寂しそうに言いました。

▼あなたの周りでも、お菓子の中身が少なくなったり、値段が上がったりといった「世知辛さ（暮らしにくさや厳しさ）」を感じる瞬間があるかもしれません。これは「物価高」という、今の日本が抱える大きな課題が、私たちの食卓にまで届いている証拠です。▼お店の人やメーカーも、きっと苦渋の決断だったはずです。こうした「お店やメーカー、個人の努力ではどうにもならない問題」を解決するために、みんなでルールを決め、集めた税金の使い道を考えるのが「政治」の役割です。▼私たちが安心してご飯を食べ、学校で学び、明るい未来を描けるようにするために、今、日本という国をどう動かしていくべきか。その大きな分かれ道が、今、目の前にあります。それが「衆議院の解散」と「総選挙」です。▼1回の衆議院選挙をするにあたって使われる税金はどれくらいだと思いますか？次の中から選んでみましょう。



① 700万円 ② 7,000万円 ③ 7億円 ④ 70億円 ⑤ 700億円 正解は⑤の約700億円と言われています。みなさんは「700億円」と

聞いて、どんなことができるか想像できますか？▼学校の給食費として使えば、全国の中学生の給食費を約1年間「完全無料」にできるほどの金額です。学校の施設の改修に使えば、老朽化した全国の小中学校の体育館やトイレを、数千校単位でピカピカに改修できます。もしも山梨県の中学生全員（約2万人）に最新のiPhoneを配付するしたら一人につき20台ずつ配ったとしてもお釣りがくるほどの金額です。▼この700億円は、みなさんも払っている消費税や、お家の方が一生懸命働いて納めている大切なお金です。だからこそ私はみなさんに考えてほしいのです。▼憲法には、

衆議院を解散する方法が2つあります。1つは内閣が信任されなかったとき（第69条）、そしてもう1つが今回行われる第7条による解散です。本来、天皇陛下の国事行為（国としての正式な手続き）として行われるこの解散は、内閣の「助言と承認」によって決まります。しかし、実は憲法に



は「いつ、どんな理由で解散すべきか」という細かいルールは書かれていません。衆議院の任期は4年と定められていますが、「解散」を「いつ、何のために使うか」は、時のリーダーの判断に委ねられているため、憲法第7条は時に「伝家の宝刀」と呼ばれることがあります。700億円という膨大な費用を投じて抜かれるその「刀」について、日本の未来を担うみなさんには是非とも関心をもってほしいと思い、筆を執りました。▼今回の解散について、世の中には2つの見方があるようです。1つは「勝負事として、最も勝てるタイミングを選ぶのはリーダーとして賢い戦略だ」という見方。もう1つは「前回の衆議院選からまだ1年3ヶ月しか経っていない今、多くの人が生活に困っているのだから、解散は今ではなく、選挙に使う税金があるならば困っている人を支援するために使うべきだ」という見方。どちらが正解、という答えはありません。私がみなさんに期待することは、いつか「一票」を投じる大人になったとき、自分なりのしっかりととした価値観をもち、どちらの考え方をするリーダーを支持するのかを判断し、一票を投じることができる人になってほしいということです。▼みなさん一人ひとりの一票は、まだ先のことです。ですが、あなたの『考える力』は、今この瞬間から未来を変える武器となります。

